

『民俗編（仮称）』概要

市川市は大柏村（昭和24年）、行徳町（昭和30年）、南行徳町（昭和31年）と合併し、埋め立てを含めて現在の市域を形成しました。農業・漁業が盛んであった頃、軍都であった頃、田畑や蓮田の宅地化や河川改修工事が進んだ時代を経て、市川市は首都圏の一画として発展してきました。

そうした都市化による変遷が目まぐるしい一方で、いまなお、基盤として形成された農村部や漁村部、町場のさまざまな文化が継承されている様子を見ることが出来ます。

例えば、生業分野では、江戸時代から脈々と続いてきた市川名産の梨をはじめ青果・花卉栽培が市川北部の農村部で盛んなのに対し、南部の漁村部では海苔の養殖や漁業の生産が挙げられ、また町場では職人技術による製作品やそれを商う人々の姿が見られます。かつて盛んだった行徳の塩をはじめ、そのような産物は、江戸川をはじめとする水路や街道を通じて近郊の江戸と繋がり、多くの交流が持たれました。

『民俗編』では、このような多彩な生活文化に注目し、市川の各地域に深く関わってきた人々の日々の暮らしを浮き彫りにします。

〔総説〕「ムラの成り立ちと変遷」

地域の形成と変遷について、伝承から市川の民俗全体を窺う。

〔第一部〕「農村の民俗・漁村の民俗」

- ① ムラとイエの生活
- ② 人の一生
- ③ 年中行事
- ④ 民間信仰
- ⑤ 生産と生業

〔第二部〕「町場と都市の民俗」

- ① 道と交流
- ② 法華経寺と門前町
- ③ 新しい町空間
- ④ 町の中の民俗
- ⑤ 個人史の世界

〔第三部〕「各論」

- ① 子どもの遊び
- ② 口承文芸
- ③ 芸能
- ④ 墓制

○実施計画

●第5巻『市川市史 民俗編（仮）』

●刊行までの実施計画概要

平成31年の発刊を目指し、予備調査（～25年）、本調査及び巻構成の決定・執筆依頼（25～26年）、補足調査及び執筆（27～29年）、編集（28～31年）の順に進めていく。

予備調査の段階では、近世期以降の史料及び既存の調査報告書の収集整理による文献調査、北部・中部・南部の3地域から各2～3地点を選出したフィールド・ワークを中心に、市川市域全体の民俗概要の把握に努める。また、市域の特色が現れている民俗事象をテーマごとに取り上げる。テーマ設定は、予備調査の段階から検討を重ね、本調査の段階で全体構成における位置づけを明確にする。

●年度ごとの主な活動内容

・平成24年度

計画：所在（サンプル）調査を行う。

テーマ別では、「市川の墓制」で共同墓地を、「生業」で漁業を、昨年に継続し調査する。

年度目標：市域調査内容をまとめる。

地蔵山墓地等の調査報告書を作成する。

・平成25年度

計画：未調査地の所在（サンプル）調査を行う。

本調査のテーマ設定し、行う。

年度目標：引き続き、市域調査内容をまとめる。

巻構成の決定を行い、執筆依頼を行う。

・平成26年度

計画：引き続き、テーマ別に本調査を行う。

次年度に向け、補足調査のための洗い出しを行う。

年度目標：執筆の依頼および準備を行う。